

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

事業所名：グループホームわがや

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	継続
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	継続
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	継続
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	継続
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	継続

事業所名：グループホームわがや

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の住民で構成されている自主的学習会の班会を行い、認知症啓発活動や、その他健康相談にも乗っている。施設で発行している新聞を通して、認知症や介護保険制度についての啓蒙活動を行っている。地域住民の傾聴ボランティア受け入れにより、認知症についての理解が広がっている	○	継続
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全員で実施し、職場会議においてその意義を確認、評価結果は全職員で共有し、指摘事項については改善策を話し合い、今後の介護の学びとしている。	○	前回椅子やテーブルが個人にあっていないのではないかとご指摘については、新規購入、個人に合わせている。緊急避難用の車いすも設置した。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	映像を通じて日々の様子を報告すると共に、行事への家族、地域の方々の参加呼びかけにより、協力も増え、地域、家族間のつながりも増えてきた。家族会を発足し、その中での意見を反映し、傾聴ボランティア協力を得ている。	○	継続
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	前回のご指摘も含めてお話し、再度運営推進会議への参加を呼びかけているものの、多忙なために参加は難しいとの返答。必要時には実情を伝え助言を得ている。	○	引き続き市町村への協力要請をしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在は制度利用者なし。	○	今後を見据えて、制度学習を行っていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	入居者の身体的、精神的変化(内出血、創傷)は記録、インシデント、ひやりはっと報告書に記載、そのつど職員全員で事実確認をすることで虐待が見過ごされることのない体制が整っている。年間では虐待についての学習を行っている。	○	継続

事業所名：グループホームわがや

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書、利用契約書、運営規定、看取り指針、利用料金、緊急連絡等、一つ一つ説明し、納得を得て契約に至っている。	○	継続
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者から聞かれた意見、不満は全て記録し、毎月のモニタリングや職場会議において全職員で共有し、改善の方向を話し合っている。必要に応じて家族への連絡を行っている。	○	継続
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の変化があるときには必ず家族へ連絡している。毎月の受診時、面会時には日々の様子を報告している。インシデント発生時には必ずご家族に報告している。金銭の預かりはなし。	○	継続
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会、運営推進会議などで家族からの意見、要望を気軽に話していただけるようにしている。運営推進会議では話にくいこともあるため、家族の要望にこたえ、家族会を発足した。意見、要望に関してはノートなどを通じ全職員で共有し、運営に生かしている。	○	継続
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場への意見要望を毎月の職場会議で聞き、改善部分は話し合い解決するようにしている。	○	継続
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要時には増員できるような人員配置にし、それ以外ではOTや看護師など法人内他部所や母体施設からの協力を得ている。	○	継続
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職が重ならないよう努力している。	○	継続

事業所名：グループホームわがや

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修計画に沿い、段階的な研修、勉強会を行っている。施設外研修、勉強会への積極的な参加、時間外においても自己学習のために参加している。	○	継続
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設からの研修受け入れや見学などで交流をし、相互間意見交換を行い学びとしている。グループホーム協会へ加入し、定期的研修会への参加、事例提供、発表等行っている。	○	継続
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	現場から離れ自分の時間を持つようにし、休憩時間を確保している。時間内業務終了にむけて業務改善に取り組んでいる。何でも話せる環境作りにつとめている。	○	継続
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	モニタリングや事例検討会から、一つ一つのケアがなぜ成功したか、なぜうまくいかなかったかを確認しあう中で、自信を持ってケアにあたるよう相互研鑽に努めている。	○	継続
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	環境に慣れていただけるよう、本人と話し、思いを聞く機会を意識的に持つ。センター方式を活用、情報収集のため生活歴や現状を職員が把握し、その方の意思に沿うような働きかけをしている。	○	継続
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が一番何に困って不安なのかを傾聴する。今後どのようにしたいのか、家族の意向を伺っている。要望を聞きながら、わがやの支援方法を説明している。	○	継続

事業所名：グループホームわがや

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との話し合いの中で、何が一番困っているのか思いを傾聴し、センター方式の活用により、的確なサービス提供に努めている。必要に応じて専門医の受診をすすめている。	○	継続
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなり入居するのではなく、デイサービス、ショートステイなどの利用、またはお試し期間として慣れてからの入居となるようにしている。	○	新規入居者に対しては今後入居前訪問もあわせて行っていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活暦を理解した上で本人の得意な分野では教えていただき、感謝する姿勢を基本としている。	○	継続
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、本人の情報提供をすることにより、現状を共有し今後のケアにつながる話をしている。	○	継続
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前の家族関係を理解した上で、面会などでは活躍されている様子をお伝えしている。施設内外への行事へのご家族参加により、関係作りに努めている。	○	継続
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できるだけ馴染みの美容院、商店、お寺、病院など継続的に利用できるよう家族と連携をとっている。できない部分については支援している。	○	継続
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	人間関係を把握した上で席の配置、孤立しないような関わりし、生活しやすい関係が保てるよう支援している。	○	継続

事業所名：グループホームわがや

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設へ移動した方はその施設の相談員から情報を得ている。	○	継続
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の活用。担当制をとり、毎月のモニタリングから本人の希望や思いの把握に努め、職場会議で全職員で共有することにより本人本位のケアにつなげている。	○	継続
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用。職員と家族との信頼関係を築いていく過程で、今まで知りえなかった生活歴などの情報を得、職員間で情報共有している。	○	継続
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の記録を元に毎月モニタリングを行い、職員間の情報共有をしている。	○	継続
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を活用し、家族の思いや本人の言葉、介護者の気づき、家族の気づきを踏まえて計画作成している。本人の言葉を重要視している。ケアプラン作成には全職員が関わっている。	○	継続
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	センター方式の活用により、本人家族との話し合いの中からケアの方向性を決めている。毎月のモニタリング実施の中でプラン見直し、達成項目、サービスに変化があれば随時検討、見直ししている。ケアプラン更新時には全ての職員が作成に関わっている。	○	継続

事業所名：グループホームわがや

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや変化、本人の言葉を毎日記録に残している。変化があればその都度介護計画の見直しに生かしている。情報共有を行うために、連絡ノート、記録を読んだから業務に入ることを確実にやっている。	○	継続
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医師、看護師、管理栄養士、OT、PT、STなどの協力を得ながら、個人にあった健康管理の支援を行えている。緊急時の受診などは柔軟な対応ができています。デイサービス、ショートステイへの訪問により、アクティビティへの参加、他利用者、職員との交流を行っている。	○	継続
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の傾聴ボランティアの受け入れ、ことぶきマスター人材バンク活用、消防署の協力による防災訓練の実施。地域での催し物への参加。	○	継続
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昔からのかかりつけ医を受診している。加齢に伴い受診できない場合は家族の意向により協力医療機関による往診を受けている。	○	継続

事業所名：グループホームわがや

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	嘱託医、往診医師への情報提供をしながら相談をし、協力医療機関の専門医と連携体制をとっている。	○	継続
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	施設長、副施設長が看護師、保健師のため、健康管理、相談はそのつど行っている。	○	継続
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	今年度入居者の入院はなし。入院した場合には早期退院に向け、日ごろから連携に努める。	○	継続
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、ケアプラン説明時において、終末期のあり方について家族や本人の希望受け入れを行っている。状況変化時には、現状とあわせ、起こりうるリスクも説明した上で、今後のケアのあり方を、家族の気持ちに寄り添いながら方針を決めている。	○	継続
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	過去の事例ではターミナル等、病状理解の勉強会を重ね、職員とかかりつけ医、家族との連絡を密にしてきた。入居者も高齢化に伴いADLも低下し、家族も終末期までの利用を希望されているので、希望を聞きながら、できるだけ普通の暮らしが送れるよう支援している。	○	ターミナルの段階ごとに家族の意向に寄り添っていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居なし。	○	

事業所名：グループホームわがや

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	恥をかかせないことを理念とし、トイレのさりげない声かけ誘導、介助、できない部分が露呈されないような声かけの工夫を行っている。誇りやプライバシーを損ねるような記録表現は使わないようにし、対応について気になった点は職場会議で確認しあっている。	○ 継続
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の言葉を大切にし、生活暦を理解した上での言葉選び、声掛けを行い、一つ一つ納得していただきながら支援をしている。	○ 継続
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気候により、入居者の希望をうかがっている。天候がよければ外出、外食、チラシに興味深いものがあれば買物など、その日の様子で支援している。	○ 継続
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族の協力で馴染みの美容院に行かれたり、家族自ら面会時散髪されている。衣類は本人にできるだけ選択してもらっている。外出時には、お化粧をしたり、お洒落着着用できるよう支援している。	○ 継続
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を作る際には冷凍のできあいのものは使わず、冷蔵庫の中のものからその日の天候や気分で入居者と共に献立を考えている。それぞれのできることに合わせた支援をしている。外食や出前も活用し、誕生日には主役の嗜好に合わせた食事の提供をしている。	○ 継続
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒タバコを好む方は現在いない。買物時に好きな物を選んでいただいたり、本人の嗜好にあわせた家族からの差し入れなどもある。おやつなどは時間や量など配慮し提供している。	○ 継続

事業所名：グループホームわがや

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	それぞれの排泄パターンを分析、個々に合った誘導が行えているため、ほぼ全ての入居者が布パンツで過ごされ、トイレでの排泄支援ができています。日中の水分量にあわせた夜間の排泄支援を行っている。	○	継続
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している	毎日の夕方入浴の実施。入浴が楽しめるような声かけをし、室温、湯加減、入浴時間を個人にあわせ支援している。1対1でゆっくり関わられる時間のため、会話を大切にし、マッサージを行うなどふれあいの時間となっている。	○	継続
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	それぞれの習慣や体調に合わせた休息が取れるような環境作りや支援ができています。	○	継続
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式の活用により、生活暦に即した役割、楽しみがもてるよう支援している。家事(掃除、調理、片付け、裁縫など)、買物、畑仕事などがすすんで行っているような声かけ、支援をしている。	○	継続
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金が手元にあると安心する方には持っていていただく。	○	継続
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望やADLにあわせて、畑、回覧板回し、ゴミ捨て、洗濯干し、散歩、買物、外食等、日常的な外出支援を行っている。	○	継続
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じた外出企画(花見、いちご狩り、さくらんぼ狩り、紅葉見学、イルミネーション見学)をし、家族の協力を得ながら外出支援している。	○	継続

事業所名：グループホームわがや

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、随時支援している。	○	継続
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	24時間の面会、泊まりが可能な体制を整えている。	○	継続
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ついて県の調査結果をもとに実態や状況を把握した上で、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。入職時、教育として身体拘束の擬似体験研修を行っている。	○	改めて、身体拘束について学習会を開き、意識を高めていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	理念の中の一つでもある施錠をしないケアを実施している。ただし、一人体制のためやむをえない場合に限り家族の同意を得た上で施錠をしている時間帯がある。	○	継続
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に職員間の連携をとりながら入居者の所在確認をしている。転倒防止のためADLの状態にあわせセンサーマット設置をしている入居者もいる。夜間は2時間おきの巡視を実施している。	○	継続
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	共有スペースにおいては刃物、薬品類は使用時以外は事務所保管。個室は個々に応じて環境整備を行っている。	○	継続
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人として介護安全対策委員会の設置。それぞれのマニュアルを作成し、勉強会を行っている。インシデント、ひやりはっとの積極的な記入、振り返りを行うことで危険予測ができ、大きな事故防止につながっている。	○	継続

事業所名：グループホームわがや

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	BLS、AED学習会定期開催しており、緊急マニュアルも作成、急変、事故発生に対応できるようにしている。	○	継続
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の防災訓練に参加。事業所独自の防災訓練実施。緊急連絡網の訓練も同時に行っている。避難用車いす設置。日常的な外出でも安全な避難誘導を考えながら支援している。地域の人々には日ごろから協力を得られるよう、関係作りに心がけている。	○	継続
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者に変化がある都度、家族へ報告している。その人らしい生活が継続できるような支援の方法を考え、今後起こりうるリスクも含め、家族と相談している。	○	継続
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの普段を知ることで早期に体調の変化に気づくことができている。変化は記録に残すと共に、申し送りを行い情報共有している。必要時、家族や医師へ情報提供を行い、受診、往診へつながっている。	○	継続
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者それぞれの薬の説明書を職員全員で読み、内容を理解した上での服薬支援を行っている。内容変化、追加があった場合にも、効用、副作用も含めて理解し、服薬開始後の症状チェックもしている。	○	継続
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の献立の工夫や、乳製品の提供、日常的な運動を行っている。硬便の方には水分を意識的に提供するようにしている。	○	継続
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後嗽、就寝前、口腔ケア支援、義歯預かり、洗浄、保管を行っている。	○	継続

事業所名：グループホームわがや

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェック表(体重、食事量、水分摂取量)の活用により、職員それぞれが入居者に応じた支援をしている。変化ある場合は家族への連絡につながっている。定期的に管理栄養士に献立チェック依頼している。	○	継続
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル作成、学習会を重ね、対処方法を統一している。常時清潔(手洗い、嗽)の徹底をしている。	○	継続
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜間毎日、調理器具、食器、布巾類消毒、冷蔵庫内掃除、食品鮮度確認を行っている。	○	継続
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りなど、家庭的な雰囲気が出るよう、花、芝生などを植えている。出入りのしやすさを考えてスロープの設置をしている。入り口の場所をわかりやすく案内をだしている。	○	継続
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	あえて、華美な装飾などはせず、生活感があり、落ち着ける空間作りをしている。不快な音(足音、職員同士の話声、洗濯、掃除音など)に配慮している。	○	継続
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにおいては狭く、一人になれる環境でない。今後も引き続き検討中。	○	継続

事業所名：グループホームわがや

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の使用していた家具や使い慣れたものの持ちこんでいる。個人に合わせた部屋の環境整備を行っている。	○	継続
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	湿度、温度管理マニュアルに従い、空調調整をしている。トイレ、ポータブル設置している部屋には不快な臭いがないよう工夫している。	○	継続
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADL、生活動作にあわせた家具、手すり、滑り止めマットの配置、設置。	○	継続
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室、トイレに看板を設置することで場所の明確化。個々の生活習慣に合った声かけ、言葉選びの実施。ADLにあわせた空間作りの工夫。	○	継続
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	洗濯干し場、畑、花壇、テラスの活用。テラスは日向ぼっこをしたり、お茶を飲んだり、近所の子どもたち、出入り関係者、他事業所職員とのコミュニケーションの場となっている。	○	継続

事業所名：グループホームわがや

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

○ケアの理念「待つ」「見守る」「恥をかかせない」「ゆっくり」「個々に寄り添う」「やりすぎの介護をしない」 ○日中は施錠をせず、入居者が出掛けたいときには必ず職員が寄り添うようにしています ○夜勤者以外全員参加の職場会議を毎月行い、利用者全員のモニタリング、インシデントの検討、業務改善、研修内容の報告、独自の学習会等を行っています ○施設全体の研修委員会主催の学習会、事例検討会および、外部で行われる研修会などに積極的に参加しています ○地域の商店、飲食店を日常的に利用し、顔なじみとなり、地域の行事に参加したり、施設内の行事にもお誘いして交流がはかれています ○家計をやりくりしながら、入居者、冷蔵庫の中身と相談し食事メニューを考え、一緒に作っています ○食材が足りなければ近所の商店へ共に買物に行っています ○職員の小さな気づきを報告書としてあげ、検討していることで、危険予測が可能になり、受診や入院に至る重大なインシデントが起きていません